

# 山ノ井松延遺跡

福岡県筑後市大字山ノ井所在遺跡の調査  
筑後市文化財調査報告書  
第99集

2011

筑後市教育委員会

## 序

本書は、平成 21 年度に発掘調査を行った山ノ井松延遺跡の調査の記録です。

当遺跡の周辺は、古代西海道が通り、これまでの調査で「葛野駅」に関連する遺構や遺物が確認された、古代における重要な地域であります。今回の調査では、古墳時代から古代にかけての住居跡などが検出されました。

この成果が今後の調査研究に活かされていくことを期待します。また、本書が地域における文化財保護への理解を深める一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、多大なご協力を賜りました関係者の方々に心より御礼申し上げます。

平成 23 年 3 月

筑後市教育委員会  
教育長 高巣一規

## 例言

1. 本書は平成 21 年度に筑後市教育委員会が行った山ノ井松延遺跡第 1 次調査の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行った。出土遺物、図面、写真等は筑後市教育委員会で収蔵、保管している。発掘調査及び整理作業の関係者は第 1 章に記している。
3. 本書に使用した図面の遺構図及び遺物実測図は吉村由美子が作成した。また、図版浄書は整理委託事業として株式会社イビソクが行った。
4. 本書に使用した遺構・遺物の写真撮影は吉村が行った。
5. 今回の調査に用いた測量座標は国土調査法第 II 座標系（世界測地系）を基準としている。
6. 本書に使用した遺構の表示は以下の略号による（筑後市における埋蔵文化財の取り扱いについて：2008 に準拠している）。  
SB - 掘立柱建物 SI - 積穴住居 SD - 溝 SK - 土坑
7. 本書の編集、執筆は吉村が行った。

## 目次

I . 調査経過と組織	1
II . 位置と環境	3
III . 調査成果	4
写真図版	

## I . 調査経過と組織

本調査地点は筑後市大字山ノ井字松延に所在する。宅地造成に伴い、平成 16 年 7 月に土地所有者である江頭博子氏から試掘・確認調査依頼が筑後市教育委員会に提出され、担当課である社会教育課が同年 8 月に現地での試掘調査を実施した。試掘調査の結果、当該地のほぼ全面で遺構が確認されたため、開発による埋蔵文化財の取り扱いについて、工事主体者であるフジホーム株式会社と協議を行った。協議の結果、住宅部分は盛土による保存調整が可能であるが、恒久構築物である道路部分について本調査を実施することで合意した。平成 22 年 1 月 14 日から同年 2 月 4 日まで現地での発掘調査を行い、報告書作成作業を平成 23 年 3 月に完了した。

### 【調査組織】

#### 1. 平成 16 年度（事前審査）

総括	教育長	城戸 一男
	教育部長	蓮原 修
庶務	社会教育課長	田中 優一
	文化スポーツ係長	成清 平和
	文化スポーツ係 (文化財担当)	永見 秀徳（試掘調査担当） 小林 勇作
		上村 英士
		立石 真二（嘱託）
		阿比留士朗（嘱託）

#### 2. 平成 21 年度（本調査）

総括	教育長	城戸 一男
	協働推進部長	田中 優一
庶務	社会教育課長	山口 辰樹
	社会教育係長	田中 純彦
	社会教育係 (文化財担当)	小林 勇作 上村 英士
		吉村由美子（嘱託：本調査担当）

#### 3. 平成 22 年度（整理作業及び報告書作成）

総括	教育長	高巣 一規
	協働推進部長	山口 辰樹
庶務	社会教育課長	高井良清美
	社会教育係長	馬場 信二
	社会教育係 (文化財担当)	小林 勇作 上村 英士
		吉村由美子（嘱託：整理・報告書担当）

#### 4. 発掘調査参加者

今山三咲子・植田 勝子・隈本 干城・田平 利彦・堤 義弘・中村 富男・  
馬場千鶴子・本村 弘年

5. 整理作業参加者

野口 晴香・野間口靖子・横井 理絵

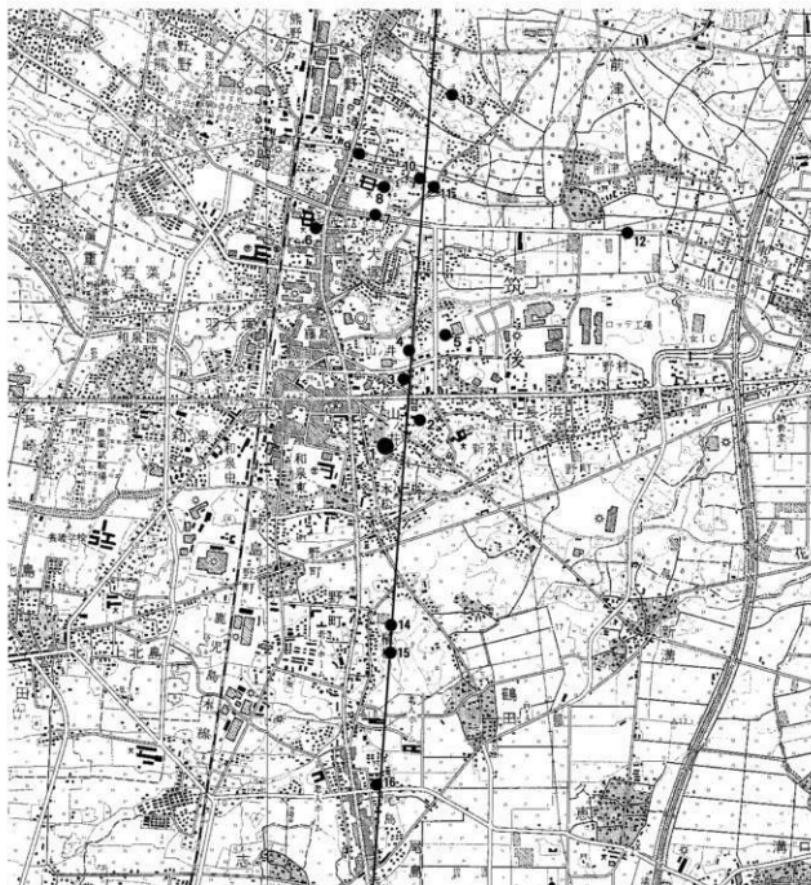


Fig.1 西海道周辺遺跡位置図 (1/25,000)

1. 山ノ井松延遺跡
2. 山ノ井南野遺跡（第5・6次）
3. 山ノ井南野遺跡（第3・4次）
4. 山ノ井川口遺跡（第1・2次）
5. 徳久中牟田遺跡
6. 羽犬塚寺ノ脇遺跡
7. 羽犬塚射場ノ本遺跡（第1～4次）
8. 羽犬塚中道遺跡（第1～5次）
9. 羽犬塚源ヶ野遺跡
10. 羽犬塚山ノ前遺跡（第1・2次）
11. 前津丑ノマヤ遺跡
12. 前津柳ノ内遺跡
13. 前津中ノ玉遺跡（第1・2次）
14. 鶴田木屋ノ角遺跡
15. 鶴田牛ヶ池遺跡（第2次）
16. 鶴田中市ノ塚遺跡（第1～4次）

## II . 位置と環境

### 1. 地理的環境

筑後市は福岡県の南西部、筑紫平野の中央部に位置する。市域をJR鹿児島本線と国道209号が縦断し、国道442号が横断する。また、市南西部には一級河川の矢部川、中央部には山ノ井川や花宗川、北部には倉目川が西流する。市北部には耳納山地から派生する八女丘陵が西に延び、灌漑用の溜池が点在する。低位扇状地である東部や、低地である南西部には農業水路が発達している。当市は県内有数の農業地帯であり、北部の丘陵地域には果樹園や茶畠、東部には米麦中心の田園地帯が広がる。市街地は国道に沿って市の中心部に形成されている。

### 2. 歴史的環境

当遺跡が所在する山ノ井地区は、市域の中央部、標高15mほどの低地に立地する。周辺では主に古墳時代～中世に属する遺跡が確認されており、本調査地点から400～500mほど北には古代西海道の道路跡を検出した山ノ井南野遺跡<sup>【出1】</sup>、山ノ井川口遺跡<sup>【出2】</sup>が所在する。この他、市内では羽犬塚山ノ前遺跡<sup>【出3】</sup>、鶴田牛ヶ池遺跡<sup>【出4】</sup>、鶴田中市ノ塚遺跡<sup>【出5】</sup>で道路跡が検出されている。これらを結んで復元される西海道は、市内を南北に貫き、本調査地点の50mほど東を通ることになる。

当遺跡の北に位置する羽犬塚、前津地区では8～9世紀にかけての遺跡が所在する。羽犬塚射場ノ本遺跡<sup>【出6】</sup>で竪穴住居群を検出したほか、羽犬塚中道遺跡<sup>【出7】</sup>では竪穴住居・掘立柱建物を検出し、「郡符葛□」「東」等の墨書き土器が出土している。また、西海道の東側にあたる前津丑ノマヤ遺跡<sup>【出8】</sup>では、8世紀前半～中頃までの掘立柱建物群が検出されている。こうした状況から、周辺は古代西海道の筑後～肥後国府間に設置された3駅家のうち「葛野駅」の存在が想定される。山ノ井、羽犬塚、前津地区は西海道を中心軸とする地域拠点として機能していたと考えられる地域である。

#### 【出】

1. 上村英士「山ノ井南野遺跡Ⅱ」筑後市文化財調査報告書第59集 筑後市教育委員会 2005
2. 小林明作「山ノ井川口遺跡」『筑後市内遺跡群IV』筑後市文化財調査報告書第45集 筑後市教育委員会 2002
3. 上村英士「山ノ井川口遺跡第2次」『筑後市内遺跡群X』筑後市文化財調査報告書第85集 筑後市教育委員会 2008
4. 上村英士「羽犬塚山ノ前遺跡」筑後市文化財調査報告書第48集 筑後市教育委員会 2003
5. 小林明作「鶴田牛ヶ池遺跡第5次調査」『筑後市内遺跡群III』筑後市文化財調査報告書第44集 筑後市教育委員会 2002
6. 小林明作「鶴田中市ノ塚遺跡（第1・3・4次調査）」『筑後市内遺跡群IV』筑後市文化財調査報告書第45集 筑後市教育委員会 2002
7. 永見秀徳「羽犬塚射場ノ本遺跡（第3次調査）」『筑後市内遺跡群VI』筑後市文化財調査報告書第65集 筑後市教育委員会 2005
8. 上村英士「前津丑ノマヤ遺跡」筑後市文化財調査報告書第80集 筑後市教育委員会 2007

### III. 調査成果

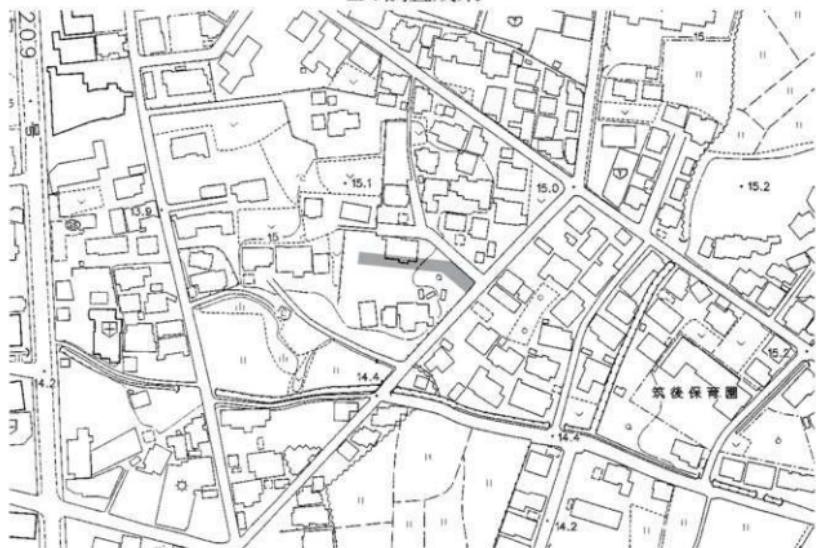


Fig.2 調査地点位置図 (1/2500)

#### (1) はじめに

計画道路部分にあたる 400 m<sup>2</sup>のうち、現住建物にかかる部分と出入口を除いて調査区を設定した。調査は吉村が担当し、平成 22 年 1 月 14 日より開始した。遺構の掘削は表土から遺構面までを(有)徳光建設に委託し、遺構面からは地元作業員による手作業の掘削を行い、平成 22 年 2 月 4 日に調査を終了した。

#### (2) 検出遺構

掘立柱建物

1SB50 (Fig.3, Pla.3)

調査区西端において検出した。2 間 × 2 間以上の総柱建物で、調査区外へ展開する可能性がある。柱間総距離は桁行 3.7m、梁行 3.3m を測り、桁行で N -33° 41' 24" - W を測る。桁行、梁行の柱間距離は心々で 1.5 ~ 2.0m を測り、平均値は 1.7m である。柱穴の平面形態は円形及び梢円形を呈し、径は 0.5 ~ 0.7m を測る。うち 2 基で径 0.2 ~ 0.3m 程の柱痕が確認された。柱穴 a・e・h で土師器(片)、柱穴 g で須恵器(片)が出土している。

豊穴住居

1SI12 (Fig.4, Pla.4)

調査区中央付近で検出した。1SD02 に切られる。東側は擾乱を受けているため全体像は不明であるが、検出最大長は東西 3.4m、南北 1.8m を測る。主軸の方位は N -23° 11' 53" - E を測る。削平により床面は検出されなかったが、掘方は 0.1m ほど残存しており、埋土に切り込む 2 基の支柱穴を確認

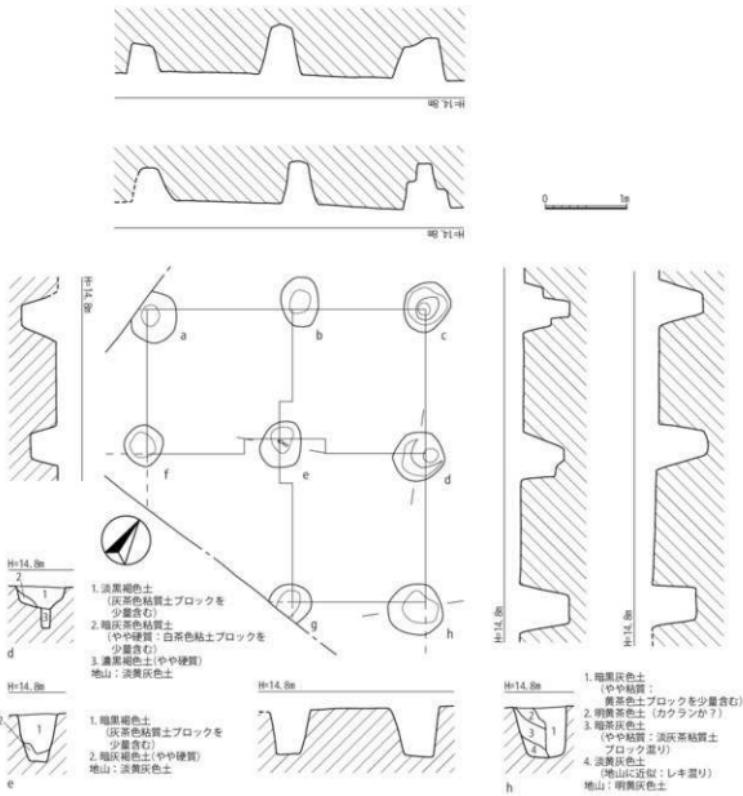


Fig.3 1SB50 遺構実測図 (1/60)

した。支柱穴は径 0.3 ~ 0.4m、住居底面からの深さは 0.6m を測る。埋土は暗灰褐色土の単一土層で、埋土中からの出土遺物はなかった。住居西壁には竈が付設される。削平によって大部分が破壊を受けているが、厚さ 0.2m 程の淡黄灰色粘土の基部と火床の痕跡が確認された。粘土の内側は、被熱により一部橙茶色に変色している。竈周辺からは土師器（甕・甕×壺・片）が出土している。

## 溝

### 1SD01 (Fig.6)

幅 0.5m を測り、深さは 5 cm 程度のごく浅い溝である。土師器（片）、陶器（片）が出土している。

### 1SD02 (Fig.6, Pla.5)

1SI12 を切る。北東 - 南西方向の溝で、底面はほぼ平坦となる。幅 0.6 ~ 0.7m、深さ 0.4m を測る。埋土は黒茶色土、黒褐色土の水平堆積で、須恵器（甕×壺）、土師器（片）、鉄製品（刀子）が出土している。

### 1SD03 (Fig.6)

1SI12 の東側で検出した。北東 - 南西方向の溝で、1SD02 とほぼ平行に走る。検出最大幅は 0.5m、深さは 0.2m 程度である。出土遺物はなかった。

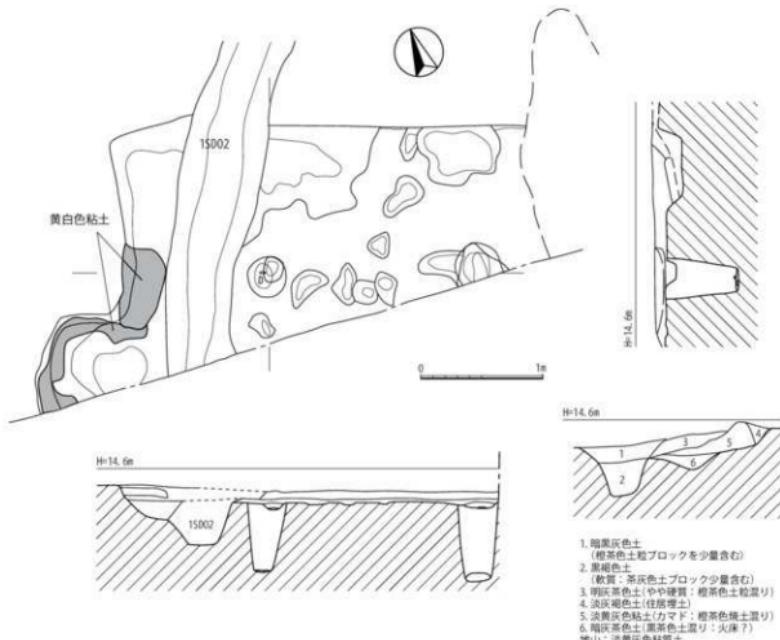


Fig.4 1SI12 遺構実測図 (1/40)

#### 1SD07 (Fig.6)

調査区東端で検出した北西 - 南東方向の溝で、幅 0.6m、深さ 0.1 ~ 0.2 m を測る。土師器（細片）が出土している。

#### 土坑

#### 1SK04 (Fig.6)

1SD01 の東側で検出した。平面形態はほぼ円形を呈する。径 0.9m、深さ 0.3m を測る。土師器（片）が出土している。

#### 1SK08 (Fig.6)

調査区中央付近で検出した。平面形態は歪な円形を呈し、径は 0.5m を測る。深さは 0.3 ~ 0.4m の 2箇所の窪み部をもち、別遺構となる可能性もある。土師器（片）が出土している。

#### 1SK09 (Fig.6)

調査区中央付近で検出した。平面形態は円形を呈し、径 0.5m、深さ 0.1m 程度の浅い遺構である。土師器（細片）が出土している。

#### 1SK11 (Fig.6)

1SK08 と 1SK09 の間で検出した。平面形態はほぼ円形を呈し、径 1.1m、深さ 0.2m を測る。一部に幅 0.2m ほどの平坦面を有する。土師器（細片）が出土している。

### (3) 出土遺物

竪穴住居

1SI12 (Fig.5, Pla.6)

土師器

甕 (1・2) 1は口辺部で、

内面にはヘラケズリ痕が

認められる。色調は内外面

とも淡橙茶色を呈する。2

は胴部片で、外面には強い

ハケ目が認められる。内面

はヘラケズリ後指頭調整。

色調は暗橙茶色を呈する。

溝

3SD02 (Fig.5, Pla.6)

須恵器

甕×壺 (3) 胴部片で、外

面はタタキ後ヨコナデ、内面には同心円状の當て具痕が残る。色調は内面暗黄灰色、外面淡茶灰色を呈する。

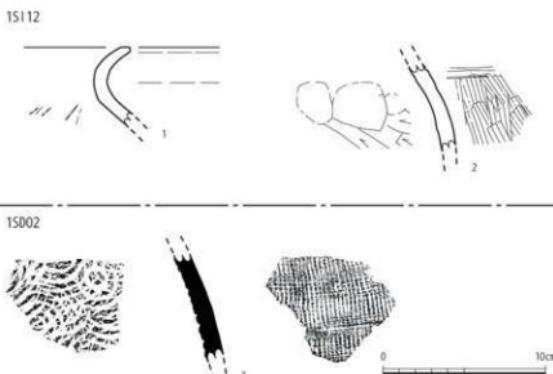


Fig.5 出土遺物実測図 (1/3)

### (4) 小結

今回の調査で検出された主な遺構として、掘立柱建物と竪穴住居が挙げられる。掘立柱建物は総柱で、2間×2間以上の比較的規模の大きな構造物である。同様の総柱建物は本調査地点から1.4kmほど北に位置する前津丘ノマヤ遺跡<sup>[註1]</sup>や羽犬塚中道遺跡<sup>[註2]</sup>で計3棟検出されている。これらは東へ約35°振り、出土遺物から概ね8世紀前半に比定される。一方、本調査の1SB50は、建物の計画方位が約35°西へ振っている。同様の方位をとる建物は、周辺では羽犬塚中道遺跡の竪穴住居などが挙げられるが、これらの遺構は、出土遺物などからやはり8世紀前半という時期が与えられる。こうした状況から、1SB50についても同時期と考えるのが妥当であろう。

また、本調査地点の立地を考えると、西海道に近接することが特徴として挙げられる。周辺では、上記の前津丘ノマヤ遺跡や羽犬塚山ノ前遺跡<sup>[註3]</sup>などの調査事例から、西海道近辺の建物は道路と平行してほぼ正方位をとることが確認されている。今回検出された掘立柱建物、竪穴住居はとともに8世紀前半に比定されるが、どちらも西海道に規制されない方位をとっている。このことから、これらの建物は8世紀前半代のうち西海道施工より早い時期に、当時の地割りに基づいて営まれたものと考えられる。

これまでの調査では、古代の集落遺跡は上述の羽犬塚地区に集中しており、本調査地点周辺の山ノ井地区での同時期の遺構の検出例はまだ少ない状況である。今後の調査事例の増加によって、集落の広がりや羽犬塚地区の建物群との関連性など、この地域における古代の様相が明らかになることを期待したい。

[註1]

1. 上村英士「前津丘ノマヤ遺跡」筑後市文化財調査報告書第80集 築後市教育委員会 2007

2. 永見秀雄「筑後市内遺跡群VI」筑後市文化財調査報告書第65集 築後市教育委員会 2005

3. 上村英士「羽犬塚山ノ前遺跡」筑後市文化財調査報告書第48集 築後市教育委員会 2003

S-番号	遺構番号	性 格	時期	遺構の先後関係(古→新)	S-番号	遺構番号	性 格	時期	遺構の先後関係(古→新)
1	1SD01	溝	不明		10		掘立柱建物ピット	奈良	
2	1SD02	溝	奈良	1SI12→1SD02	11	1SK11	土坑	不明	
3	1SD03	溝	不明		12	1SI12	堅穴住居	奈良	1SI12→1SD02
4	1SK04	土坑	不明		15		掘立柱建物ピット	奈良	
5		掘立柱建物ピット	奈良		20		掘立柱建物ピット	奈良	
6		堅穴住居カマド	奈良		25		掘立柱建物ピット	奈良	
7	1SD07	溝	不明		30		掘立柱建物ピット	奈良	
8	1SK08	土坑	不明		35		掘立柱建物ピット	奈良	
9	1SK09	土坑	不明		40		掘立柱建物ピット	奈良	

Tab.1 遺構番号台帳

S-1		
土師器	片	
陶器	片	
S-2		
土師器	片	
須恵器	壺×壺片	
鉄製品	刀子	
S-2周辺		
土師器	細片	
S-4		
土師器	片	

S-5		
土師器	片	
S-6		
土師器	壺、壺×壺、片	
その他	粘土塊	
S-7		
土師器	細片	
S-8		
土師器	片	
S-9		
土師器	細片	

S-11		
土師器	細片	
S-25		
土師器	片	
S-30		
須恵器	片	
S-35		
土師器	細片	

Tab.2 出土遺物一覧表

Fig.-No.	遺構番号	R-番号	遺物名	器種名	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	残 存	備 考
5 - 1	1SI12	1	土師器	甕	-	△	4.90	-	口辺部1/3
5 - 2	1SI12	2	土師器	甕	-	△	5.30	-	胴部破片
5 - 3	1SD02	3	須恵器	甕×壺	-	△	6.60	-	胴部破片

Tab.3 出土遺物観察表

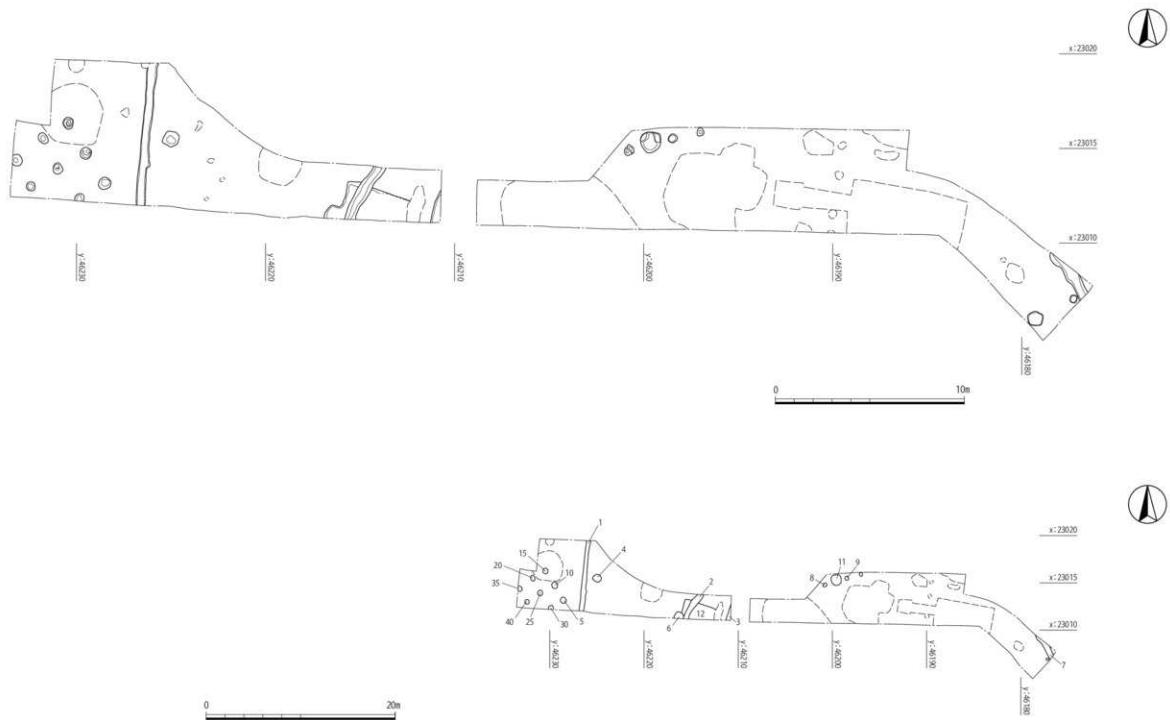


Fig.6 遺構全体実測図(1/200)・遺構略測図(1/400)

P L A T E



Pla.1 西調査区全景（南東から）



Pla.2 東調査区全景（南西から）



Pla.3 1SB50 完掘状況（東から）



Pla.4 1SI12 完掘状況（南から）



Pla.5 1SD02 完掘状況（北から）



Pla.6 出土遺物

筑後市文化財調査報告書 第99集

## 山ノ井松延遺跡

平成23年3月31日

発行 築後市教育委員会  
福岡県筑後市大字山ノ井898  
TEL 0942-53-4111

印刷 大同印刷株式会社  
佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20  
TEL 0952-71-8520㈹

